

港湾振興便り



2023. 6

第193号

:~

目次

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

1 ポートエッセイ — G7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議を終えて —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 国際クルーズ船「クイーン・エリザベス」が小樽へ初寄港しました
(小樽市産業港湾部港湾室港湾振興課)
- 「第74回東京みなと祭り」にブースを出展しました
(関東地方整備局 東京港湾事務所)
- 入善町沖洋上風力発電所 建設工事 ～基地港・七尾港における大型SEP船～
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)
- 4年ぶりに『親子のフェスティバル』で体験航海イベントを行いました！
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)
- 「熊本港新規事業化報告会兼海輝お披露目式」を開催しました
(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)
- 「クルーズ船の初寄港について(那覇港第2クルーズバース)」
(沖縄総合事務局)

3 お知らせ

- ◇イベント名: 宇出津あばれ祭り
- ◇イベント名: 港フェスタ金沢2023
- ◇イベント名: 第77回海の日名古屋みなと祭

*:

2 トピック

*:

● 国際クルーズ船「クイーン・エリザベス」が小樽へ初寄港しました

(小樽市産業港湾部港湾室港湾振興課)

2023年5月27日(土)、キュナード・ラインが運航する国際クルーズ船「クイーン・エリザベス」(90,900 t)が小樽港勝納ふ頭に初寄港しました。小樽港では、新型コロナウイルス感染症の影響により2019年9月を最後に国際クルーズ船の寄港が途絶えていましたが、2023年4月から約4年ぶりに国際クルーズ船の受入を再開しました。

当日は土曜日ということもあり、市内外から多くの人が集まるなか、入港歓迎式を岸壁上で開催し、船長と小樽市長の記念品交換や、小樽コンシェルジュからの花束贈呈も実施しました。また、岸壁に観光案内所と物販ブースを設置したほか、歓迎行事として小樽潮太鼓保存会による太鼓打演の実施により、久しぶりに小樽港に賑わいが戻ってきました。

小樽港では現在、市街地に隣接する第3号ふ頭において大型船対応岸壁の整備など、ふ頭及びその周辺の再整備を行っています。クルーズ船の寄港時における利便性の向上を図るとともに、これらを通じてより多くのクルーズ船が小樽港へ寄港いただけるよう誘致活動を継続していきます。



○小樽港に初寄港した「クイーン・エリザベス」



○入港歓迎式

●「第74回東京みなと祭り」にブースを出展しました

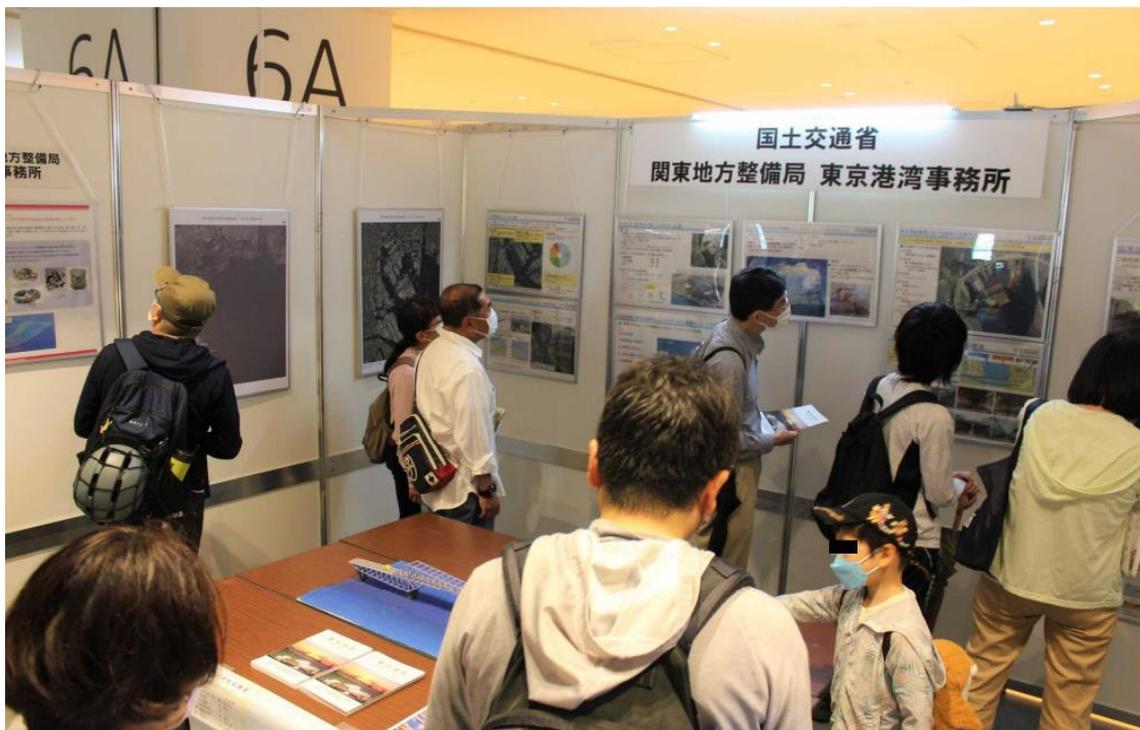
(関東地方整備局 東京港湾事務所)

5月20日(土)21日(日)の二日間、東京国際クルーズターミナルにおいて「第74回東京みなと祭」が開催され、約2万5千人の来場者がありました。

「東京みなと祭」は、開港記念日を祝うイベントとして、毎年5月20日前後の土日に開催していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止による中止が続き、今年は4年ぶりのリアル開催となりました。

イベントでは、東京港周遊クルーズや冷凍コンテナ体験など、様々なアトラクションが行われました。当事務所ではブースを設置し、東京港や特定離島事業のパネル展示や、子供にもわかりやすいDVDの上映を行いました。

ブースでは東京湾の昔と今の写真を見比べたり、東京ゲートブリッジの模型に実際に触れたりされていました。また、東京港中防外側地区海上コンテナターミナル整備事業についてご理解や応援の言葉をいただきました。



東京港湾事務所ブースの様子

● 入善町沖洋上風力発電所 建設工事 ～基地港・七尾港における大型SEP船～

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

富山県入善町沖では、令和5年9月の営業運転開始を目指し3,000kw級3基(電力供給量:約3,600世帯分)の洋上風力発電所建設工事が進められています。この洋上風力発電所は都道府県条例に基づく一般海域での占用許可によるもので、民間資金100%による一般海域での洋上風力発電としては国内初になるとのことです。

建設工事には世界最大級の大型SEP船「BLUE WWIND」が使用され、その基地港として七尾港が使用されました。七尾港から入善町までは陸路では約100kmですが、海路では富山湾を横断するため57kmと意外と近い距離にあります。

大型SEP船は令和5年3月23日に七尾港に初入港し、4月～6月上旬にかけて七尾港大田ふ頭(3号、物専)で500t及び350tクローラークレーンにより組み立てた風車の部材(支柱、羽など)を積み込み、入善町沖へ運搬し設置作業を行いました。その間、七尾港～入善町沖を4往復しました。

この大型SEP船は全長142m、全幅50m、総トン数28,000t、クレーンの最大揚重能力は2,500t、最大揚重高さ158m、レグ長は109mまで延長可という諸元で、大型客船とは違った圧倒感。夜間作業時には照明が煌々と光り、短い期間でしたが七尾港に違った風景を醸し出していました。



大型SEP船



風車羽を積み込み中



夜間照明点



入善町沖で風車支柱設置

● 4年ぶりに『親子のフェスティバル』で体験航海イベントを行いました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

令和5年5月21日(日)、敦賀港のきらめきみなと館とその周辺において、「第41回親子のフェスティバル」が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大前と同規模で開催されるのは、令和元年以来4年ぶりです。

このイベントは「親と子・仲間・地域・自然とのふれあい等を通じて青少年の健全育成を図る」、「子ども達の全力の笑顔を見る」などを目的に青少年健全育成敦賀市民会議の主催で開催され、海上自衛隊のミサイル艇「はやぶさ」の一般公開のほか、北陸新幹線開業300日前のPRブース、市内の吹奏楽団による演奏会など、様々なイベントが行われ、多くの親子で賑わいを見せていました。

当事務所からも、港湾業務艇「まつかぜ」による親子の体験航海を実施しました。船内で敦賀港を利用する貨物や船の種類、港の役割などを説明しながら、日頃見る事のできない海からの眺めを体験してもらいました。乗船した親子からは敦賀港内の設備についての質問もあり、港へ関心を持ってくれたようで、航海が終わる頃にはみんな笑顔になっていました。引き続き、体験航海等を通じて多くの人に「みなと」を知ってもらえるよう、地域のイベントに参加してまいります。



港湾業務艇「まつかぜ」



船内にて港の役割を説明

●「熊本港新規事業化報告会兼海輝お披露目式」を開催しました

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

5月13日(土)九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所及び熊本県の共催により「熊本港新規事業化報告会兼海輝お披露目式」を開催しました。

熊本港は、その背後圏に約100万人の人口を有する熊本都市圏を抱え、熊本県北・県央の生活・産業関連物資の輸送効率化を通じ県北の経済を支えるみなとであり、平成28年熊本地震の発生及び近年の半導体をはじめとした関連企業の進出等により、防災・物流拠点として熊本港の重要性が高まっているところです。

今般、熊本港の耐震強化岸壁が事業化され、地域の防災機能の強化及び背後産業の物流の効率化に寄与することが期待されます。

また、漂流ごみ等の回収機能と水質・底質調査が行える海洋環境整備船「海輝(かいき)」については、平成15年の配備以降、海洋環境の保全と改善に取り組んできましたが、老朽化(ろうきゅうか)に伴い、令和5年4月にリプレイスした新「海輝」が就航いたしました。今後も新たな「海輝」による有明海・八代海をはじめとする担務海域の海洋環境の保全等に努めていきます。



テープカットの様子



新「海輝」

